

横浜こどもスポーツ基金「パラリンピアンとスポーツ体験」報告

1. 日 時	平成30年10月18日(木) 12:45 ~13:30
2. 場 所	三ツ沢公園 補助陸上競技場
3. 参加者	100名(ハートフルルームに通している、または、利用している児童生徒) 50名(教員、保護者、ボランティア、教育委員会職員)
4. 集合	現地
5. 交通手段	各団体で集合
6. 内容	スポーツ交流会事業は、不登校状態にある児童生徒に対して、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の補充、学校生活への適応等を図り、再登校、社会的自立に向けた相談や支援を行う目的で実施されています。体育協会としては、この事業に賛同し、平成23年度より午後のさわやかスポーツ体験事業を今後の健康体力づくりに活かせるように実施しています。そこで、今回午後のさわやかスポーツの一部に、障がい者スポーツに理解や関心を高める事業として、自身が病気のため、右足の切断を余儀なくされたが、周囲の協力や自身の「諦めない気持ち」によりパラリンピックを目指し、陸上に挑戦している選手に講師を依頼し、障害のあるなしにかかわらずスポーツを通じて障がい者と子どもたちが一緒に運動ができる機会を提供し、互いに思いやりの気持ちを育めるような事業を実施します。
7. 場内アナウンス	講師が話す後方に横浜こどもスポーツ基金のバナーを1枚掲出をしました。
8. 全体所感	第1日目が雨天のため順延された。予備日に開催されたため、講師が村上 清加氏から小林久枝氏に変更された。自身が病気のため、右足の切断を余儀なくされた体験談や陸上競技を始めたきっかけなどを中心に講話をした。また、冒頭50m程度ではあるが競技用の義足でデモンストレーションを実施。 講話の最中に、スポーツモデルの義足を参加者に触れさせたり、最近の義足の脱着方法などを説明した。参加者は義足を初めて見て、触ることができたため、障がい者スポーツに関わりを持つきっかけにはなったのではないかと。今後は「諦めない気持ち」を持ち授業に活かしてもらいたい。

○デモンストレーションと体験談による講話

●講師紹介



●デモンストレーション



●義足の取り付け方法



●講話



●義足に触れる

